

(一社)日本詩人クラブ 2023年 12月 例会のご案内

——宮沢賢治没後90年(『春と修羅』100年)記念——

日時 2023年12月9日(土) 14時～17時

(資料代500円)

会場 今井館聖書講堂

当日の様子はYouTubeで生配信いたします。



YouTube

詩朗読 & スピーチ

池田 高明 (相模原市) / 井嶋 りゅう (大和市) / 田中 佑季明 (いわき市)

第一部 講演

「言語の夢 夢の言語 宮沢賢治が求めた『まことのことば』」

千葉 一幹 (大東文化大学教授)

宮沢賢治は、生前出版した唯一の詩集『春と修羅』第一集(ちなみに賢治自身はこの著作を詩集と見なされることを峻拒し、あくまで「心象スケッチ」と呼ぶことを求めました)に収められた表題作である詩編「春と修羅」において「まことのことばはここになく／修羅のなみだはつちにふる」と記しました。宮沢賢治は熱烈な法華経の信者であり、そうした経緯からこの「まことのことば」とは、仏教でいう「真言」を指していると解釈されてきました。しかしその内実ははっきりしません。そこでまず「春と修羅」を、フロイトの『夢判断』および精神科医の新宮一成の理論に依拠して解釈し、「まことのことば」の有り様を明らかにしようと思います。その上で賢治の童話作品に描き出された言語の姿とりわけ人間と動物がコミュニケーションする様について考察を加え、最後に賢治にとって最愛の妹であったトシの臨終の場面を描いた「永訣の朝」等の作品の分析を通じて賢治が求めた「夢の言語」に迫ろうと思います。

■プロフィール 千葉 一幹 (ちば かずみき) 1961年三重県生まれ。1984年東京大学文学部卒業、1991年東京大学総合文化研究科比較文学比較文化博士課程入学満期退学、1992年東北芸術工科大学専任講師、2005年拓殖大学商学部教授を経て、2014年より大東文化大学文学部日本文学科教授、現在に至る。1998年講談社群像新人文学賞(評論部門)で受賞。著書に、『宮沢賢治 すべてのさいはひをかけてねがふ』(2014年・ミネルヴァ書房、島田謹二記念学芸賞受賞作)、『現代文学は震災の傷を癒せるか』(2019年・ミネルヴァ書房)『コンテクストの読み方』(2021年・NTT出版)『失格でもいいじゃないの 太宰治の罪と愛』(2023年・講談社)などがある。

第二部 詩と音楽

「黒田三郎の詩と歌の世界」

黒田 正己 (詩人のご長男)

■プロフィール 黒田 正己 (くろだ まさみ) 1962年東京都中央区生まれ。姉の影響を受けて3歳からピアノを習い始める。中学でギターやベースを弾き出し、高校の頃には独学でオリジナル曲を作るようになっていた。学生時代から幾つかのバンドを経て、2007年より「第三楽区」のペースとして都内を中心にライブ活動中。「第三楽区」は自他共に認めるビートルズとオフコースのフォロワー。彼らの曲を好んで演奏しており、黒田正己自身の作・編曲にもそのテイストが浸透していることは間違いない。近年、バンド活動と並行してソロオリジナルアルバム制作を行って来たが、2018年に1stアルバム「ある日ある時」が完成。「紙風船」やタイトルソングの「ある日ある時」など父・黒田三郎の詩に取り組むことで新境地を開いた。黒田正己の曲や歌声は決して派手なものではないだろう。しかしながら、自然で心地良い響きとちょっとした不思議を求めて音楽の旅を続けている。

2023年度 新入会員の紹介

*このあと忘年会があります。皆さまの参加をお待ちしています。

*11月例会は行いません。ご注意ください。

例会・国際交流担当理事：谷口典子 (TEL03-6265-7485)

丹羽京子 (TEL090-1107-1199)

NPO法人今井館教友会
今井館聖書講堂

東京都文京区本駒込6-11-15

●JR山手線 駒込駅 南口 徒歩11分

●地下鉄南北線 駒込駅 2番 徒歩8分

●地下鉄都営三田線 千石駅 A4 徒歩5分

六義園をめざしてください。六義園運動場側です。

